

## 旅立ちの日に2024

3月13日（水）は、第77回卒業証書授与式の日です。式では、歌を歌います。まずは、校歌です。全校生による校歌となります。そして、3年生は『旅立ちの日に』を歌います。この曲は、多くの中学校で卒業式に歌われるものです。卒業式に、よく合う曲です。なぜなのでしょう。それは、中学校から生まれた歌だからではないでしょうか。

この歌が誕生したのは1991年です。その当時、埼玉県秩父（ちちぶ）市立影森中学校は、落ち着きのない学校でした。今の野田中学校とは全く違う雰囲気为学校でした。校長の小嶋登先生は、いろいろと悩み、考えました。そして、学校を立て直すために「歌声の響く学校」を目指すことにします。落ち着きのない学校で歌声というのは、なかなかハードルの高いことです。

中心となるのは、音楽の先生です。音楽科担当は、まだ20代後半の坂本浩美先生でした。坂本先生は、かなり苦勞したはずで、悩んだはずで、普段の音楽の授業さえままならないところに、全校に歌声を響かせるというのですから。

影森中学校では、小嶋校長先生の考えのもと、合唱の機会が増えていきます。最初からうまくいったわけではありません。それでも、坂本先生を中心に粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は徐々に明るくなっていきます。

歌声の響く学校を目指して3年目の1991年2月下旬のことでした。坂本先生は、歌声の響く学校の集大成（しゅうたいせい）として、卒業する生徒たちのために何か記念になる世界にひとつしかないものを残したいと考えました。

坂本先生は、小嶋校長先生に自分の思いを伝えます。そして、作詞を校長先生に依頼しました。そのとき、校長先生は「私にはそんなセンスはないから」と断っています。ところが、翌日、坂本先生の机には書き上げられた詞があったのです。

その詞を見た坂本先生は、素敵な言葉が散りばめられている歌詞に感激します。そして、早速、空き時間に一人で音楽室にこもり楽曲制作に取りかかります。すると、旋律（せんりつ）が湧き出るように思い浮かび、わずか15分ほどであの名曲ができ上がってしまったのです。

できがった曲は、最初の予定では、たった一度だけ先生方から卒業生に向けて歌うためのものでした。それが「3年生を送る会」です。一度きりのサプライズのはずでした。ところが、次の年から生徒たちが歌うようになります。小嶋校長先生は、この年に定年を迎えて退職しました。

しばらくは、影森中学校だけで歌われていた合唱曲でした。それが、次第にまわりの小中学校でも歌われるようになります。そして、1998年頃までには全国の学校で歌われるようになったのです。

この歌には力があります。この歌を聞くと多くの人が涙します。それは、学校から誕生した歌だからです。中学校の先生がつくった歌だからです。人の思いが込められた歌だからです。

野田中学校には、野田中学校の『旅立ちの日に』があります。それを聞くことができるのが、3月13日（水）です。3年生の皆さん、自分たちの思いを、後輩たちに、先生方に残して行ってください。それを体育館中の皆さんが受け止めることになるでしょう。「飛び立とう 未来信じて」「このひろい大空に 夢をたくして」